

財団だより

第154号

2018.6

# 多摩川



## コアジサシ

写真・文 大野 章(川崎市多摩区在住)



コアジサシ(小鯨刺)は、南半球から渡ってくる絶滅危惧種の夏鳥で、小魚を採食します。多摩川では水質向上等による鮎の増加で4月末から7月末の間に見られ、白いスマートな姿が楽しめます。この鳥の別名は「鮎刺」ですが、多摩川(主として登戸地区)では、そのシャープな飛び方から「鮎鷹」とも呼ばれます。昭和初期の北原白秋の詩「鮎鷹」(鮎鷹は多摩の千鳥よ…)や、同氏作詞による「多摩川音頭」(わたしゃ鮎鷹、多摩川育ち…)があります。また鳴き声を囀りにした「鮎鷹踊り」も行われたとのことで、多摩川では昔から親しまれてきた野鳥です。



### 目次

- |                       |                                |
|-----------------------|--------------------------------|
| ■ 多摩川改修100年特集 …………… 2 | ■ インフォメ多摩川 …………… 10            |
| ■ 多摩川散歩 …………… 8       | ■ ヘタレサイクリスト 多摩川を下る! …… 16      |
| ■ 多摩川に学ぶ …………… 9      | ■ 財団からのお知らせ …………… 18           |
|                       | ■ News Topic / 読者コーナー …………… 19 |

# 多摩川改修 100 年

～ 昔から好き、これからも好き、多摩川。～

今年が多摩川改修 100 年の年です。京浜河川事務所様から原稿を頂戴いたしました。もう一度多摩川の治水の歴史、防災の要である自助・共助・公助の連携の大切さや多摩川の魅力について一緒に学んでいきたいと思えます。

これからの 100 年も安心、安全で美しい多摩川を目指して…。



【多摩川 最初の一滴】



【多摩川 最初の流れから水干を望む】

## 多摩川の流域および河川の概要

多摩川は、その源を山梨県甲州市の笠取山（標高 1,953m）に発し、途中多くの支川を合わせながら、東京都の西部から南部を流下し、東京都と神奈川県の間を流れ、東京湾に注ぐ、幹川流路延長 138km、流域面積 1,240km<sup>2</sup>の一級河川です。

その流域は、首都圏の南西部にあって細長い羽状形を呈し、流域面積の約 3 分の 1 を占める中・下流の平野部は、首都圏の中でも都市化の進展が著しい地域であり、高度な土地利用がなされています。

多摩川の上流部は、御岳渓谷や秋川渓谷に代表される山岳渓谷美に富んだ清流となっており、深く刻まれた渓谷部の岩肌を洗いながら一気に下り、青梅市を過ぎたあたりから武蔵野台地の南縁に沿って瀬と淵を織り成し、密集した市街地の中を抜け東京湾に注いでいます。その風情は、山間渓谷部から河口まで刻々と姿を変え、都市空間の一部を形成しているとともに、都市に残された貴重な散策、レクリエーションなどの場として、多くの人々に利用されており、その流れは人々に憩いと安らぎを与え、首都圏を代表する河川として、広く愛されています。

多摩川は、このように首都圏に残された広大な水と緑の空間であり、河口から万年橋までの間だけでも年間約 2,000 万人（平成 9 年時点）の人々が訪れているとともに、200 以上（平成 10 年時点）の市民団体が結成され、多摩川に関する多種多様な活動が行われ、幅広い分野からの情報発信が行われています。





富士山を背景に撮影された航空写真

## 明治期の河川行政

明治新政府の成立によって近代的な河川行政の確立と法制度の整備が図られるようになりましたが、初期の河川行政は手探りでその基礎固めに奔走しており、所管も民部、大蔵、工部などの各省間をめまぐるしく変遷したすえに、1873年（明治6）に至り内務省所管に落ち着きました。以後1946年（昭和21）の内務省解体に伴う建設省設置まで、河川行政は一貫して内務省所管でした。

一方、法制度については、1896年（明治29）に河川行政の基本法である河川法が制定され、それまで、地方単独事業に委ねられていた高水工事（※）が国庫負担となりました。ただし、河川法制定に伴う国の直轄高水工事は、淀川、筑後川、木曾川、利根川などを含め、1907年（明治40）度までにわずか11河川で着手されたにすぎず、その後、1907年（明治40）、1910年（明治43）と相次ぐ水害に見舞われ、特に1910年（明治43）出水は大きな被害を発生させました。その結果、1910年（明治43）12月21日、いわゆる第1次治水計画が策定されました。

第1次治水計画では直轄改修施行河川を流域平地面積10方里（約154km<sup>2</sup>）以上の65河川として、このうち20河川を第1期河川、残り45河川を第2期とし、多摩川は第2期河川であったため、直轄改修の施行までは従来どおり府県による改修を進めることが、決定されました。

## アミガサ事件

多摩川は首都圏を流れる川の中でも急流であることから、古くから大規模な氾濫を起こし、沿岸住民を苦しめ続けてきました。これまで、多摩川の治水事業は低地水防を主に、用水路開削による新田開発と密接に関係しながら、江戸時代に至ってより急速に推進されましたが、近世以来の水害の頻発は、明治期に至ってますます深刻化し、抜本的な水害対策が進まぬまま水害激化の方向をたどりました。

中でも、橘樹郡御幸村から中原村にかけての一部地域は無堤部であったため、洪水の度に多大の被害を被っていました。1910年（明治43）水害後の臨時治水調査会で、多摩川は第2期河川に編入されたことで、地元住民らは、度重なる水害と陳情によっても一向に進展しない状況において、もはや一刻の猶予もできないといった空気が地元民の間にみなぎり、地元村民が結束を固めて新堤築造を実現させようという意識は急速に高まったと思われます。

そして、1914年（大正3）9月15日、小倉村、鹿島田、町田村、江ヶ崎、北加瀬などの関係地域の代表とともに新堤実現のための具体的な方策を討議し、その結果、要求がいかに強いものであるかを示

※高水工事…氾濫防止を目的とした築堤などの工事

すため、関係村民が大挙して当局に迫るといった方法が確認され、直ちに次のような行動を取ることが決定されました。

- ・ 明るる 16 日午前 2 時出発のこと
- ・ 服装は羽織を用いざること。草鞋をはき、且つ目印としてアミガサを冠ること
- ・ 進路は各自の随意とすれども、なるべく警官の目を避けて目的地に達する様にする

こうして「アミガサ事件」が起こるに至ったのです。

1914 年（大正 3）9 月 16 日午前 1 時、御幸村の村民は八幡社に集合し、2 時過ぎに神奈川県庁に向けて、出発しました。途中、川崎市幸区鹿島田を経て幸区小倉に至り、更に同志 90 人と合流しました。鶴見川の末吉橋にたどり着いた時に、鶴見川は濁流滔々と渦を巻き、溢れて渡ることが出来ず、止むを得ず鶴見橋に迂回しようとしたのですが、鶴見橋は警官防備線の中心地のため、協議の末、一同、意を決し、末吉橋を渡ることになりました。一同、衣服を頭に結び付けて胸に達する濁流を押切り、互に助け合い、励し合い進み、1 時間半後、ようやく対岸に渡ることが出来ました。

ようやく、神奈川県庁に到着したものの、地元村民の実力行使に対し、県当局は代表 10 名とのみ面接するとして、石原知事と土木課長らが交渉の席に臨みました。しかし、実力行使に対する注意を受けた他は、要領を得ぬ回答を得ただけで、何も進展が見られませんでした。

そこで、橋樹<sup>たかはら</sup>郡長は、9 月 19 日に被害関係地区の有志を郡役所に招集し、多摩川築堤期成同盟会を結成して、大々的な運動を起こすこととしました。同盟会の幹事委員らは直ちに行動を開始し、県当局との交渉、対岸荏原郡堤防の沿革調査などを進め、その結果、10 月 12 日には、同盟会の熱心な活動に動かされてか、石原知事は土木課長を従えて無堤部の視察を行いました。

しかし、翌 1915 年（大正 4）、郡道改修問題に端を発して、同盟会の各町村は利害の対立を見るに至り、御幸村はほとんど孤立状態に陥り、また、この年の 9 月、神奈川県知事の更迭があり、石原知事に変わって有吉忠一が知事に就任しました。

有吉知事は、治水についてきわめて熱心でした。着任早々、多摩川の視察を行い、その治水の緊要なることを認め、また、新堤築堤問題について前知事からの引継ぎがあったこともあり、就任後直ちに新堤築造について内務省の認可を求めましたが、すでに 1914 年（大正 3）の出願において、旧慣の変更は認められないとして不許可にしていることを理由に、内務省はこの再出願を認めませんでした。

そこで、有吉知事は無堤部である上平間天神台より中原村上丸子に至る郡道を水害防止の目的により改修することを認可する旨の通達を下すことを 1915 年（大正 4）に決定しました。就任後、わずか 2 カ月後の 11 月初旬のことでした。御幸村上平間、中丸子、下沼部の 3 大字住民は、この決定により悲願の築堤が形を変えて実現されることを知り、郡道改良速成期成同盟会を組織して対処することになりました。翌 1916 年（大正 5）1 月 25 日、郡道改修工事は正式に認可され、4 月に着工されました。しかし、着工後間もなく 4 月 18 日に至り突然内務省より工事中止の命が下されてしまいました。その理由は、郡道改修であっても、河川に影響を及ぼす場合には河川法に基づき国の許可が必要であるとのことでした。未認可で施行したことにより、譴責処分を受けながらも、有吉知事はそれならば公然と堤防築造として認可させようと、内務省と交渉を重ねました。その結果、内務大臣は郡道を堤防として認める



治水記念碑



という裁定を下し、6月7日、改修工事が再開されました。こうした経緯を経て、9月30日にこの新堤は完成し、12月18日には玉川尋常小学校で竣功式が挙行されました。この席で、羽田郡長は、知事の奔走に対する感謝の意を込めて、新堤を有吉堤と命名しました。

この、神奈川県庁に大挙し陳情を行った、沿川住民の切なる築堤請願実力行動が、いわゆる『アミガサ事件』です。

そして、この『アミガサ事件』は『有吉堤』を完成させ、そして、1918年（大正7）の国直轄による「多摩川改修」の実現へと向かわせました。

## 多摩川の治水事業の概要

多摩川水系の治水事業については、1918年（大正7）より直轄事業として、二子橋地先から河口までの区間について、1910年（明治43）の洪水に基づき、計画高水流量を $4,170\text{m}^3/\text{s}$ とし、築堤・掘削・しゅんせつ及び水衝部等には護岸を施工しました。

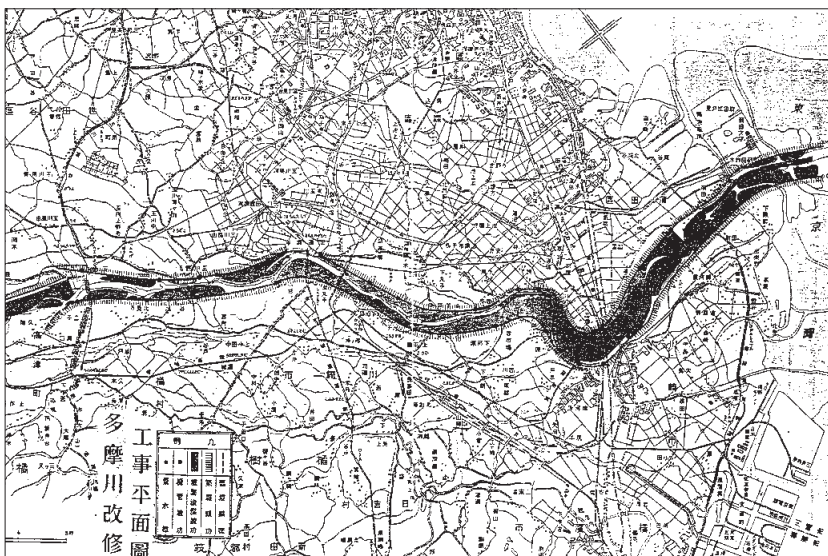
また、1932年（昭和7）より二子橋地先から日野橋地先までの区間について、日野橋地点における計画高水流量を $3,330\text{m}^3/\text{s}$ とし、築堤・掘削・護岸等の工事を実施し、あわせて支川浅川の高幡橋地先から下流の区間について同様の工事を実施しました。

加えて、1959年（昭和34）の伊勢湾台風を契機として河口部の高潮対策を実施しました。

その後、1966年（昭和41）には河川法の改正を受け、これらの計画を踏襲した多摩川水系工事実施基本計画を策定しました。しかし、1974年（昭和49）9月台風16号により計画高水流量に匹敵する洪水に見まわれ、二ヶ領宿河原堰左岸の狛江市猪方地先において、堤防が決壊し、家屋等19棟が流される被害が生じたことから、1975年（昭和50）4月に、この洪水等の出水の状況及び流域の開発状況等を考慮し、基準地点石原の基本高水のピーク流量を $8,700\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち上流ダム群により $2,200\text{m}^3/\text{s}$ の調節を行い、計画高水流量を $6,500\text{m}^3/\text{s}$ と改定しました。



多摩川水系河川整備計画



多摩川改修工事平面図

さらに、多摩川において破堤氾濫が発生した場合、壊滅的な被害が予想され経済社会活動に甚大な影響を与えることが懸念されるため、超過洪水対策として1988年（昭和63）3月に工事実施基本計画に高規格堤防の整備を位置づけました。

そして、平成9年の河川法の改正を機に、これまでの多摩川水系工事実施基本計画に変わり、平成12年12月に多摩川水系河川整備基本方針を決定し、2001年（平成13）3月に全国で2番目となる多摩川河川整備計画を作成しました。

# 多摩川改修100年プロジェクトについて

## 平成30年は 多摩川改修百年です

1914年（大正3年）、御幸村（現:川崎市）とその周辺の村民たち500余名が明治40年、明治43年とたび重なる洪水による被害に耐えかねアミガサをかぶって神奈川県庁に押し寄せ多摩川の早期築堤を訴えるアミガサ事件がおこりました。

このアミガサ事件を契機に

1918年（大正7年）、国による多摩川改修事業が始まり

2018年（平成30年）で100年の節目を迎えます。

そこで、あらためて多摩川の治水の歴史を振り返り

これからももっと多摩川を知っていただくため

多摩川流域の自治体のご協力を得ながら、より良い多摩川を目指すため

**「多摩川改修100年プロジェクト」**として各種イベントを開催していきます。



多摩川治水記念碑  
(東京都大田区田園調布)



平成30年5月14日 多摩川改修100年プロジェクト発足式典

多摩川改修100年  
京浜河川事務所HP





# 多摩川改修100年プロジェクトについて

多摩川改修100年プロジェクトとして  
統一ロゴやイメージキャラクターを準備しました



ロゴ



イメージ  
キャラクター

百川多摩



ポスター



チラシ

多摩川改修100年プロジェクトとして 各種イベントを開催していきます

▶平成30年5月14日(月) **多摩川改修100年プロジェクトキックオフ!**

『多摩川改修100年プロジェクト発足式典』開催

▶平成30年7月～平成31年2月

『多摩川流域市区町村によるパネルリレー』実施

▶平成30年9月～平成31年1月

『エクスカーションツアー』実施

【第1弾】9月頃：アミガサ事件（9月16日）をめぐるツアー

【第2弾】10月頃：砂利鉄道、陸閘等の歴史をめぐるツアー

【第3弾】1月頃：多摩川船上ツアー

▶平成31年3月2日(土) **多摩川改修100年メインイベント!**

『多摩川を歌う』多摩川が歌詞に入っている校歌等を小学生が歌う合唱コンクール  
及びパネルディスカッション

京浜河川事務所  
Facebook



京浜河川事務所ではFacebookを公開しています!

<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>

京浜河川事務所の取り組みや所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに分かりやすく情報発信していきます。多摩川改修100年の情報も発信します!

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所



## 多摩川散歩

### 多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局  
NPO法人多摩源流こすげ事務局  
東京農業大学非常勤講師

### 石坂真悟

#### 小菅村での学生調査

多摩川源流研究所が2001年に設立してから、多くの調査や研究を受入れてきました。

森林や林業に関すること、動植物や畑や農時期、地域づくりに携わる団体や人を対象としたものなど、多岐にわたる調査が毎年行われていました。昨年は、とうきゅう環境財団の助成研究のひとつである重昆達也さんのコウモリの調査も村内で行いました。

NPO法人多摩源流こすげや多摩川源流大学は、このような調査を希望する大学や学生の調査地選定の相談や、調査実施までの現地での調整、現地調査での補助などの支援、先行調査の紹介、調査結果・資料の保存を担っております。

学生の調査研究の動物や森林などの調査については、単年度のものもあれば、先行研究を引き継ぎ数年にわたり実施するものもあります。小菅村での調査や研究がスムーズに進むよう、今後とも活動してまいりますので、調査等ご希望の際にはご連絡頂ければ幸いです。

#### 研究紹介『山にある「ヌタ場」は誰が利用するか?』

「ヌタ場」は、山中にある水が湧き泥浴びができる水たまりで、シカやイノシシ、クマなどが水分補給や、体についたノミを取るため、発情期に自分の体に匂いを付けるために利用されています。今まで、シカやイノシシが「ヌタ場」をよく利用していることがわかっていましたが、その他の動物がどのように利用しているかは、あまり研究されていなかったため、東京農業大学野生動物学研究室 亀村聡氏は「ヌタ場に集まる鳥類」をメインとした調査を2年間、小菅村に通い詰め修士論文にまとめてくれました。

結果としては、小菅村で確認されている森林棲鳥類の大半がヌタ場を水源および採食場として利用し、他の生物と間接的・直接的な関りをもっていることが分かり、特によく利用する種類、季節変動があり、その地域の鳥類相の把握、調査の重要な観察スポットになり得ることがわかったそうです。



ヌタ場に舞い降りたフクロウ

参照論文：東京農業大学バイオセラピー学専攻 亀村聡  
「山梨県小菅村における鳥類のヌタ場利用に関する研究」(2017)

## NPOこすげイベント情報

### ○源流釣り教室



溪流釣り教室は、少人数で開催しています

3月の溪流釣り解禁に合わせて当スタッフの小林が、「初心者でも安心して溪流釣りを始められる釣り教室(初級)」として開催している教室が毎回大好評をえて、6月は少しレベルアップした溪流釣り教室(中級)も開催予定です。ぜひ、今年溪流釣りを初めてみたい方、小菅川でデビューしませんか?

- ・溪流釣り教室(初級、中級：日程別で開催)  
日 時 中級 6月16日(土)、初級 6月17日(日)  
集 合 小菅フィッシングヴィレッジ

### 『小菅の湯の前に、〇〇体験!』

小菅村を訪れる方のメインの目的として不動の1位は、やはり「小菅の湯」です。お湯につかる前に小菅村ならではの体験プログラムにトライされては如何でしょうか?

#### ●農作業体験

NPO法人多摩源流こすげでは、多摩川源流大学と連携して「農作業体験」を実施しています。

小菅の湯から徒歩10分ほどの畑で農作業体験ができます。

開催日はNPOこすげのホームページをご覧ください。

#### ●7月～8月 多摩川源流体験

毎年恒例の多摩川の源流を体いっぱい体験する「多摩川源流体験」。今年も緑あふれる大自然と、透き通った源流がみなさまをお待ちしております。

体験できる日程等は、NPOこすげホームページの多摩川源流体験ページをご覧ください。

<http://npokosuge.jp/project/genryutaiken>

各種体験の募集概要はNPOこすげの体験イベントのページをご覧ください。下記までお問合せください。

電話 0428-87-7055

「〇〇体験について話を聞きたい」とお伝えください。



多摩川源流体験 源流の沢を自力で登る

## 小菅村イベント情報

### ○7月15日(日) 狛江市いかだレース

小菅村の友好都市の狛江市で開催される「狛江古代カップいかだレース」に今年も2艇出艇予定です。毎年、多くの皆さまに応援頂きながら、優秀な(?)成績を納めています。今年の小菅号へのご声援、是非ともよろしくお願いたします。



いかだレースに参戦した「小菅号」



## 多摩川に学ぶ

### 川流れとガサガサ



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

#### からだごと体感する多摩川の魅力

暑くなって来ると、川の活動は繁忙期を迎える。都会に隣接した多摩川だからこそ、遠くまで出かけずとも自然体験できる貴重さがある。中でも「川流れ」と「ガサガサ（魚捕り）」は普遍的な人気がある。

「川流れ」とは、ライフジャケットで浮きながら川の流れに身を任せ、海ともプールとも違う川を全身で体感する活動である。泳ぐのではなく静かに流されることで、魚も警戒せず寄って来る。



最初に浮く練習をした後、みんなで協力して流れてみる

シュノーケルを使っただけで多摩川の竜宮城は、身近にこんな自然があったのかという驚きを与えてくれる。川底の砂を足で濁らすと、目の前に群がって来る魚たち。その光景にはことばにきれない感動がある。



川の生きものを目の当たりにするシュノーケリング

しかし、川流れはある程度の水量と流れが必要であることから、経験豊富な講師と十分な安全管理スタッフの配置がなければ実現不可能である。また水量と川底の状況確認などの事前踏査により、場合によっては実施場所を変更するなど目に見えないところでの徹底した安全管理を行っている。川に入る服装は、ケガを避けるため運動靴や長袖長ズボンで、なるべく肌の露出を避けるなど、川で安全に遊ぶルールを参加者に伝え、危険を含めて理解を促すことも大切である。

きぬたまあそび村では、世田谷区の委託事業として河川敷原っぱの遊び場活動と併せて、夏の川遊びを年に約10回行う。また毎年、京浜河川事務所主催により二子新地で行われる「夏休み多摩川教室」で、NPO法人多摩川センターの「川遊び体験教室」の協力も行っている。行政と連携して無料や安価で行うことで、あらゆる子どもに体験の機会が開かれていることにも重要な意味がある。

もうひとつの定番、「ガサガサ」は多くの水辺の楽校などで実施し、知られるようになってきた川の生きもの観察である。草の根もとや石陰に隠れている魚やエビなどを足でガサガサと奇襲攻撃し、ビックリして逃げ出して来たところをタモ網で捕獲するため、こういう通称になったのだろう。泳いでいる魚はそう簡単には捕まえないが、ガサガサだとおもしろいように手網に入ってくれる。隠れ家になりそうな場所には、案外ナマズなど大物が潜んでいたりもするので、逃げられないように子どもたちが網で周りを囲んで一斉にガサガサする。うちの娘は小学生の頃に、川に倒れていた樹に潜んでいた大ウナギを捕まえた経験を持っている。網を持ち上げた際、あまりの重さにビックリしたそうだ。大きくて網に入り切らず、慌てて掴んだけれど逃げられてしまったが、思わぬ川の主との出会いと手応えは忘れられないと言う。



ガサガサで今回は何が捕れるかな

こうした貴重な原体験を生む活動が行えるのも、多摩川の水質の改善が進んだからこそである。一時は環境汚染が進み死の川とも言われた多摩川だが、下水道の整備や人々の努力で、ここ数十年間で徐々に改善され、生態系が戻って来た経緯がある。

遊びながら五感で川を感じ自然を楽しむと同時に、過去の苦い歴史を伝えていくことが大切である。子どもたちは地域の未来そのものだから。

## インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の6月から9月に開催される環境活動に関する  
主な行事・イベント情報を紹介いたします。

### 美しい多摩川フォーラム

1. 第46回調布市環境フェアに出展（6月2日（土）：調布市役所）
2. 第11回多摩川一斉水質調査実施（6月3日（日）：青梅信用金庫本店）
3. 多摩川“水”大学講座開催（6月15日（金）：公益財団法人とうきゅう環境財団 会議室）
4. 多摩川っ子（第11号）発行（7月上旬）
5. 狛江古代カップ第28回多摩川いかにレース参加（7月15日（日）：狛江市）
6. 多摩川“水”大学講座開催（7月20日（金）：公益財団法人とうきゅう環境財団 会議室）
7. 第10回炭焼き体験と水辺の交流会開催（8月21日（火）：青梅市） 予備日22日
8. 「多摩の物語」の語り会（9月15日（土）：世田谷区）
9. 多摩川“水”大学講座開催（9月21日（金）：公益財団法人とうきゅう環境財団 会議室）
10. 美しい多摩川フォーラムの森（青梅）下刈イベント（9月22日（土）：青梅市）

#### ■お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局（青梅信用金庫 地域貢献部内）

担当：及川 / 木村 / 鈴木

TEL:0428 - 24 - 5632 FAX:0428 - 24 - 4650

E-mail:forum@tama-river.jp URL:http://tama-river.jp

### むさしの化石塾 = 多摩川で化石から学ぶ環境教育です =

#### ■室内ワークショップ（多摩川中流域の第四紀学に関する調べ学習会）

- ・参加人数：1回10名限定 参加費：1000円（財団日より読者割引価格）
  - ・開催日時：6/16（土）化石の調べ学習  
7/14（土）化石の調べ学習  
8/18（土）化石の調べ学習  
9/15（土）化石の調べ学習
  - ・開催場所：〒208-0003 東京都武蔵村山市中央3-20-7 むさしの化石塾
- ※日程は変わることがあります。



#### ■むさしの化石塾近傍 オプション企画

「狭山丘陵・里山巡検 羽村村山軽便鉄道トンネル巡りと狭山層の化石観察」  
幻の軽便鉄道跡地を巡りながら狭山丘陵の地域自然史を学びます。

※参加希望者のみ日程調整後、実施致します。催行人数30名まで。

参加費：2000円（財団日より読者割引価格）

集合場所：カタクリ温泉協会の武蔵村山市歴史民俗資料館駐車場集合



ル ー ト：武蔵村山市役所集合→歴史民俗資料館見学→野山北公園→SGO 火山灰層見学→丘陵谷戸地散策→軽便鉄道横田トンネル→御岳トンネル→狭山層内湾露頭観察→むさしの化石塾化石館見学→武蔵村山市役所解散

・最寄りバス停：武蔵村山市役所前 下車徒歩 3 分 西武拝島線東大和市駅からイオンモール村山青梅車庫行き西武バス。都バス。多摩都市モノレール上北台駅から市内 MM シャトル武蔵村山市役所前下車。JR 立川駅北口からイオンモール村山、武蔵村山市役所行き立川バス。

### ■野外（化石発掘・体感・体験）イベント ※参加者化石調査モニター実施

- ・6月9日（土）10時～2時 雨天時翌日開催
- ・7月7日（土）10時～2時 雨天時翌日開催
- ・8月12日（日）10時～2時
- ・9月8日（土）10時～2時 雨天時翌日開催

集合場所：多摩都市モノレール柴崎体育館改札出口集合

野外現地：日野市栄町多摩川河床左岸小山田層（160 万年前）

参加費：2000 円（財団日より読者割引価格）

持ち物：（お弁当用持参）マイナスドライバー、ハンマー、軍手、  
採集用布袋

※野外ワークショップ詳細は参加申込み者に別途ご案内いたします。



### ■参加希望者へご挨拶 主催者からのメッセージ

多摩川で見つかる第四紀層の化石を学習コンテンツにした楽しい調べ学習の生涯学習教室です。シニア・主婦から未就学児童までどなたでも参加できます。

むずかしい内容ではありません。化石に触れることで多摩川の地域自然史のダイナミズムに触れて頂き、環境教育の発想に生かしていただきたいのです。

化石を手にする事で、もっと不思議な、センス・オブ・ワンダーをあなたも体感する事でしょう。そこには、専門家も、素人も、大人も子供も関係ありません。多摩川の偉大な自然の恵みと宝庫に感謝をする想いでご参加くださいませ。どうぞお気軽に、お楽しみください。但し参加人数に限りがありますので、事前申し込みと、受益者負担としての参加費のご理解、ご協力をお願いいたします。特に室内作業は、むさしの化石塾事務所は小さな場所ですので（笑）。

### ■お問い合わせ先

※参加申し込みはメール送信にてお願いいたします。

参加メールには、参加希望イベント件名を書き（1）参加希望日、（2）参加者氏名、（3）ご年齢・性別又は学年（4）所属先、（5）ご住所連絡先、（6）電話番号、メールアドレス、web アドレス等（7）緊急連絡先（スマホ、携帯端末）（8）ご参加希望の理由。ご興味。伝達事項があればメッセージ

※個人情報の取り扱いは十分にご注意いたします。

連絡先、むさしの化石塾メールアドレス :geo@extra.ocn.ne.jp

まで、ご返信お願いします。定員内でしたら確実にご参加可能です。

●むさしの化石塾 (@musasino\_fossil) | Twitter

●むさしの化石塾 BLOG <http://musashinofossil.seesaa.net/>



## 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

### ■野川せせらぎ教室～世田谷区成城四丁目付近の野川

・7月22日(日) 午前9時30分～11時30分 ※要申込

### ■(一財)世田谷トラストまちづくりビジターセンター / 世田谷区成城4-29-1(野川沿い)

「身近な自然と触れ合うミニイベント」※要申込：tel.03-3789-6111

・6月10日(日)午後1時30分～3時 ・7月8日(日)午前10時～11時30分

・8月5日(日)午前10時～11時30分 ・9月2日(日)午前10時～11時30分

・「みどりの上映会」毎週土曜日 午前10時～正午、午後1時30分～3時30分 随時・申込不要

### ■申込・お問い合わせ先

(一財)世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

\*5月7日より下記へ移転しました

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5 財団HP <http://www.setagayatm.or.jp/>

## 川崎市域水辺の楽校

### ■川崎市域水辺の楽校開催予定

かわさき水辺の楽校	だいし水辺の楽校	とどろき水辺の楽校
7月16日(祝・月) 多摩川本流での投網打ち と鮎のから揚げ大会 10:00～13:00 二ヶ領せせらぎ館周辺	6月30日(土)・7月28日(土) 干潟観察会 10:00～12:00 干潟館と周辺干潟 大師橋周辺	日程未定 夏休み多摩川教室 10:00～14:00 二子新地付近河川敷
日程未定 夏休み多摩川教室 10:00～14:00	8月11日(土)8月12日(日) だいし水辺の夏休み自由研究 10:00～15:00 干潟館内と周辺の干潟	8月5日(日) 多摩川カヌー教室 ①10:00～ ②13:00～
8月18日(土) 東名下湧水での小魚観察、 網でもすくってみよう 10:00～14:00 東名高速道路下	9月8日(土) ハゼ釣り教室 13:00～15:00 水防センター前	多摩川丸子橋下河川敷 日程未定 多摩川エコラシコ 川崎フロンターレ選手会主催の エコ活動(多摩川清掃活動)
9月9日(日) 二ヶ領用水で魚つかみ (多摩区と合同) 10:00～14:00 二ヶ領せせらぎ館手前	9月22日(土) ハゼ釣り教室 13:00～15:00 水防センター前	9月23日(日) 川の安全教室 10:00～13:00 多摩川丸子橋付近河川敷

### ■お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校 理事・事務局 鈴木真知子

〒212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604

Eメール :info@todoroki.org <http://www.todoroki.org>



## NPO 法人 砧・多摩川あそび村

### ■ 「きぬたまあそび村」

「自分の責任で自由に遊ぶ」多摩川の自然体験遊び場です。世田谷区の委託を受けて運営し、プレーワーカーと呼ばれるスタッフが常駐しています。

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 10 時 30 分～ 17 時

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大グラウンド前下車 1 分

成城学園行き バス停：砧南中学校前下車 4 分

### ★イベント案内

・きぬたまフェス 6 月 23 日（土）

プレーワーカーと子どもたちで作り上げるイベントです。

時間と場所：「きぬたまあそび村」の活動内で行います。

・ウォータースライダー 7 月 21 日（土）

13:00～15:00

場所：多摩川河川敷駒沢大学玉川校舎前の土手

・川あそび（川流れ、ガサガサなど）

講師：多摩川博士・えのきん 参加費：無料

#### 7 月

16 日（月）、23 日（月）

#### 8 月

1 日（水）、4 日（土）、8 日（水）、  
11 日（土）、18 日（土）、22 日（水）、  
25 日（土）、29 日（水）

#### 9 月

1 日（土）、8 日（土）

時間と場所、服装など、詳細はブログなどに UP します。下記にてご確認ください。



### ■お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL info@kinutama.com

HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

## NPO 法人多摩川エコミュージアム

### ■第14回 多摩川夕涼みコンサート (2018 ミズベリング 水辺で乾杯!!)

日 時：7月7日(土) 開場 17時30分 開演 18時30分

場 所：JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8分 ニヶ領せせらぎ館河川敷

内 容：第1部 プア ピカケ ミホ フラストジオ 第2部 いとしのエリーズ

チケット：前売:1000円 当日:1300円

雨天時：小雨決行、雨天時はニヶ領せせらぎ館 2階で開催

主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム

同日開催：天まで届け!かわさき色輪っかつなぎ 2018  
13時～ 無料

主 催：かわさき色輪っか実行委員会

協 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム



### ■夏休み体験教室 2018

期 間：2018年7月23日(月)～8月19日(日)

教 室：たまがわの水質をしらべよう。リモコンで動くタワシをつくろう。ほか

場 所：JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8分 ニヶ領せせらぎ館

申 込：事前申し込み制となっています。詳しくは下記の問合先へご確認下さい。

### ■第11回 エコ★カップいかだ下り

日 時：8月4日(土) 10時～13時 予備日なし

場 所：JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8分 ニヶ領せせらぎ館河川敷

内 容：参加者が廃材で作ったイカダでレースを行い、レース後解体し分別ゴミ処理。タイムレースではなく、川を楽しみながら多摩川を約1km下ります。

参加条件：参加費 1,000円 / 人 5名以内のチームとして参加し、そのうち1名は、5歳以上12歳未満のお子様をお願いいたします。

募集期間：5月10日(木)～6月10日(日)

主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム

後 援：国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所、川崎市



### ■第15回 多摩川夕涼みコンサート

日 時：9月1日(土) 開場 17時30分 開演 18時

場 所：JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8分 ニヶ領せせらぎ館河川敷

内 容：style-3! (アコースティック POP インストユニット)

チケット：前売:1000円 当日:1300円

主 催：NPO 法人多摩川エコミュージアム

### ■お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館 (にかりょうせせらぎかん) 電 話 :044-900-8386

住 所 : 神奈川県川崎市多摩区宿河原 1 - 5 - 1 URL <http://www.seseragikan.com/>



## せたがや水辺の楽校

### ■あそびの日（第1日曜日 10時～12時）

東急田園都市線二子玉川駅近くの野川に入ってお魚の観察をします。

開催日：6月3日/7月1日/8月5日/9月2日

集合・受付：せたがや水辺の楽校原っぱ（二子玉川緑地運動場 ピクニック広場のとなり）  
：野川ベース（兵庫島公園（二子橋公園）の脇の野川のほとり）

※2か所で受付をします。詳しいアクセスは、NPO 法人せたがや水辺デザインネットワークホームページをご覧ください→ <https://mizubedesign.org/access.html>

※事前お申込み、参加費は不要です。当日集合場所にお越しください。

※準備などの詳細は、「せたがや水辺の楽校」ホームページでご確認ください。

→ [http://www.re-forest.com/setagaya\\_mizube/](http://www.re-forest.com/setagaya_mizube/)

※雨天荒天の中止は「せたがや水辺の楽校ブログ」でお知らせします。→ <https://semizube.exblog.jp/>



### ■お問い合わせ先

NPO 法人 せたがや水辺デザインネットワーク事務局

MAIL [info@mizubedesign.org](mailto:info@mizubedesign.org)

TEL 080 - 3007 - 5413 (村上)

HP <https://mizubedesign.org>



## 事務局より

川というものは、いつもそこに行けば当然のごとく同じ軌跡を描いて流れているものと、今までの人生で大いなる勘違いをしておりましたが、実は、諸先輩方の並々ならぬ労苦の上に川の流れが築かれていることを、今更ながら知り、目から鱗がごそっと落ちた次第です。都市に住む人間として、川をどう捉え、どう付き合っていくべきか。多摩川改修百年を機に、これから百年くらいかけてじっくり考えてみたいと思います。（Z）



多摩川水大学講座1回目が終わりました。

学生気分を味わいながらクラスメートと一緒に学んでいます。新しいノートに新しい文房具を揃えました。

6月～9月は多摩川での楽しいイベントは、まだまだ沢山ございます。

とうきゅう環境財団のFacebook（We love Tamagawa）でもご紹介をしていきますのでよろしくお願いいたします。（M）



# 多摩川を下る!

ヘタレサイクリスト

その②

財団事務局Zです。第2回の今回もまた青梅線の電車に揺られ、終点奥多摩駅へやってまいりました。ここは前回、自転車を畳んで帰途についた場所でもあります。今回は駅前で「サイクリングマップ」なるものをゲットしました。青梅までの川沿いの道のりが、表道、裏道含めてこまごまと載っています。今日はひとつ、これを片手に下ってみることにしましょう。



ですがその前に、駅の上の喫茶店で腹ごしらえ。この店、土産物店や雑貨店も兼ねていて、なんだか山小屋みたいなイイ雰囲気です（コーヒー旨し）。



さて、スタートするといきなり、こんな風景が展開します。橋の上からは、はるか眼下に清流が。（高所恐怖症の方はご注意ください。）



マップの「進言」にしたがって、メインルートを外れて旧道をたどってみました。道幅は広いのに、車は入って来られません。この解放感は、サイクリストの特権ですね。しばらくペダルを進めていくと・・・

白丸ダムに出ました。前回の小河内ダム（奥多摩湖）よりずっと小振りですが、このほうがダムの全体像がよく分かります。



下ばかり向いていて疲れたので、ふと仰ぎ見ると、抜けるような初夏の青空がどこまでも深く広がっています・・・



行く手には、たびたびこんなトンネルが姿を現します。ひんやりした空気と、天井に響く車輪の音が異世界のような。闇の向こうから覗く新緑がなんとも鮮やか。



青梅線の電車です。この橋もなかなかレトロで味がありますね。





奥多摩大橋。鶴が羽を広げたようなその姿は、遠くからでもよく見えます。この橋の向こう側は吉野街道、こちら側は青梅街道と、多摩川を挟んでつかず離れず並走しますが、今日はなんとなく気分で、青梅街道をそのまま進むことに。



御嶽（みたけ）渓谷の入口。このあたりから、ようやく「ふつうに」河原に降りることができるようになります。ここから沢井までの2キロ弱は、川面を横に見ながら気持ちのいい遊歩道が続きます。銀星号に待ってもらって、ちょっと歩いてみましょう。



ロッククライミングにラフティング。このあたりは、川にまつわるスポーツのメッカになっているようです。（いつの日にか、ワタクシも・・・。）



今回の旅で、初めて川の水に触れてみました。冷たくて気持ちがいいです。



ちょっと昼寝もしてみました。傍らを二、三人ばかり通りすぎたような気がしましたが、構うことはありません。



「とうふ遊び 豆らく」というお店に入ってみました。これは「二色のざる豆腐膳」。いろいろな形と色の小鉢がオシャレ。肉のように見えるものも、全て豆腐です。ちなみに小鉢の中身は全て、真空パックを横の売店で買うことができます。



まわりは川沿いの遊歩道になっているので、腹ごなしに散策してみます。この寺は寒山寺。鐘は自由に衝くことができます。うーん、厳かな音色。

こんな感じに、ほど良い手入れ感で、うねうねと散歩道が続きます。昨年はこのあたりに熊が現れたそうです。まさに「♪森のくまさん」の風情ですね（でももし本当に出くわしたら、歌っている場合ではない）。



さて再び銀星号のもとに戻り、サドルにまたがってトロトロ進み、ほどなく、あたりが賑やかになってきたと思ったら、あれよあれよと言う間に、青梅駅に着いてしまいました。まだまだ先に駆けそうですが、なにごとにも潮時が大事。この先は次回の楽しみにとっておきましょう。

### ◆今日のおみやげ



「へそまんじう」。ひと箱8個入りで、白と茶が半々ずつ入っています。同封の「由来記」にある「ゆめゆめへそごまはとるべからず」のくだりが笑えます。



次回は青梅駅から、さらに下流を目指します！

（取材 2017年6月／追加撮影 2018年4月）

## 財団からのお知らせ

## 2018年度 研究助成内定者

## 1 新規 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	多摩川における感染力を有した腸管系ウイルスの動態解明	端 昭彦	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 特任助教	2年
2	多摩川河口域における水生菌類の多様性と有機物分解機能の評価	鏡味 麻衣子	東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授	2年
3	多摩川水系におけるニホンウナギの保全のための資源生態調査	黒木 真理	東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教	2年
4	多摩川水系における天然及び人工放射性物質の環境総合評価	岡田 往子	東京都市大学 工学部 原子力研究所 准教授	2年
5	多摩川の微生物生態系モデル構築による下水処理水の影響や季節変動の解析	山村 雅幸	東京工業大学 情報理工学院 教授	2年
6	多摩川流域における「耕作跡地の二次草原」の生物多様性とその時空間動態	今井 伸夫	東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科 森林生態学研究室 准教授	2年
7	多摩川流域のアブラナ科アブラナ属の地域在来野菜における遺伝的由来と品種および栽培特性に関わる研究	元木 悟	明治大学農学部 准教授	2年
8	多摩川流域の観光発展と環境教育の役割について 一人々の観光に関わる行動分析と観光政策	高尾 美鈴	中央大学大学院経済学研究科	2年
合 計 (8件)				

## 2 新規 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	小平市内における玉川上水系分水路網の基礎的環境調査 (玉川上水中流域の小川分水と分水路網の残存状況調査)	鈴木 利博	学び舎江戸東京ユネスコクラブ 水と緑・環境委員長	1年
2	多摩川における日本在来河原植物の分布調査	柴田 隆行	多摩川の自然を守る会 代表	2年
3	用水を地域資源として活用するための水利用の歴史 —砂川用水を例にして—	小坂 克信		1年
4	多摩川産軟体動物化石を利用した環境教育実験と市民参加型・調べ学習による「第四紀学」の古環境復元の研究	福嶋 徹	Geo Wonder 企画 むさしの化石塾 代表	1年
5	玉川上水・分水網の保全再生とフィールド・ミュージアム展開に関する調査	辻野 五郎丸	玉川上水域研究会 代表	1年
6	御岳山山城 蘚苔類フロア調査 —御岳山の苔の魅力を発掘し、大切な資源として後世に遺すために—	井口 三月	御岳山苔の会 代表	2年
7	21世紀初頭における多摩川および浅川水系流域の残存灌漑水田の立地環境の人文的実態把握調査と水田・用水保全活用に向けての将来的課題の研究	北村 敏	グループ・みずと暮らすひの	1年
合 計 (7件)				

## 3 継続 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	多摩川水域における希土類元素の存在分布とその起源に関する研究 —主として MRI 造影剤用のガドリニウム濃度との関連性について—	井上 一雅	首都大学東京大学院人間健康科学研究科放射線科学域 准教授	2年
2	都市型河川における魚類の遺伝的多様性	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授	2年
3	多摩川集水域 50 地点定期モニタリングによる放射性セシウム蓄積スポット調査	小池 裕也	明治大学理工学部応用化学科 専任講師	2年
4	多摩川の河川水、及び河川底の環境 DNA 解析による微生物叢解析 —微生物を指標とした河川管理ガイドラインの提案の試み—	齊藤 玉緒	上智大学理工学部物質生命理工学科 教授	2年
5	多摩川の潜在的な希土類元素汚染と水生生物に対する生体影響の解析	関本 征史	麻布大学 生命・環境科学部 環境衛生学研究室 准教授	2年
6	多摩川流域所在アーカイブズの情報集約・公開に関する調査・研究 —地域持続のために—	宮間 純一	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館 准教授	2年
7	多摩川上流部の里山林における菌類多様性評価 —里山林は樹木共生性きのこの種多様性の受け皿となりうるか—	田中 恵	東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科 准教授	2年
合 計 (7件)				

## 4 継続 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間
1	ICレコーダーを利用した多摩川上流部及び東京都山間部における絶滅危惧鳥類と希少鳥類の生息調査	鈴木 浩克		2年
2	多摩川流域の地下水の文化、価値を継承する次世代教育のためにコミュニケーションを重視した「水を守る」「水を活かす」リーダーとなる人材育成	大嶽 貴恵	環境まちづくり NPO エコメッセ 理事長	2年
合 計 (2件)				
総 合 計 (24件)				



## News Topic

### 「NPO 法人多摩川エコミュージアム」 手づくり郷土（ふるさと）賞で大賞受賞！

NPO 法人多摩川エコミュージアム 事務局 柘植 正躬

ニヶ領せせらぎ館を拠点に活動する、私たち「NPO 法人多摩川エコミュージアム」の取り組み「多摩川エコミュージアムプランの推進」“人をつなげる森と川 ～ニヶ領せせらぎ館をまちの広場に～”が、2017年度「手づくり郷土（ふるさと）賞」（国土交通省 表彰）の大賞に選定されました。

2018年4月10日に認定授与式が川崎市庁舎内で開催され、認定証と記念盾を頂きました。この受賞を好機とし他の団体との連携をより広め「川でつながる郷土づくり」を更に展開していきたいと思ひます。

多摩川エコミュージアム 公式ホームページ : <http://www.seseragikan.com/>



認定証を頂いた松井代表理事（左）と国土交通省関東地方整備局 泊局長（右）

#### 読者コーナー



読者コーナーが開設されたので投稿してみました。

多摩川を見ながら育った者です。そして現在子育て中です。

子供が、参加できるイベントがたくさん紹介をされているので、見えています。これからも親子で参加できる多摩川河川敷・川での楽しいイベントを沢山掲載して下さい。 川崎市在住 子育て奮闘中のママより

読者コーナーでは、「財団だより多摩川」へのご意見・又は流域のイベントの紹介、多摩川でみかけたものなど楽しいおたよりや情報をお待ちしております。

公益財団法人 とうきゅう環境財団 info 宛に MAIL でお送りください。

▶メール宛先

[info@tokyuenv.or.jp](mailto:info@tokyuenv.or.jp)

- 発行日 2018年6月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 とうきゅう環境財団  
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル5F)  
TEL 03-3400-9142 FAX 03-3400-9141  
公式ウェブサイト <http://www.tokyuenv.or.jp/>

2018年は多摩川改修から

# 100年

1918(大正7)年から  
国家の一大プロジェクトとして  
多摩川の改修方針を定め、  
直轄事業として整備が  
行われるようになりました。  
今日に至るまで続けられてきた  
多摩川の改修。  
これからの100年も、安心・安全な  
多摩川を目指していきます。



# がた わま

改修百年

昔から好き、  
これからも好き。



国土交通省 京浜河川事務所

多摩川改修100年イメージキャラクター  
百川 多摩 (ももかわ たま)  
多摩川の近くに住んでいる明朗活発な女子高生。  
小さい頃から多摩川で遊んでいて、今も堤防が通学路。  
自然豊かな多摩川のが大好き。